様式第８号（第５条関係）
（その１）

十和田市議会
総合事務局
31.1.15
受付
572

平成３１年　１月１５日

十和田市議会議長
竹　島　勝　昭　　様

会　派　名　柊の会
経理責任者　戸　来　　伝

平成３０年度（４月～１２月）政務活動費収支報告について

十和田市議会政務活動費の交付に関する条例第７条第１項の規定に基づき、別紙のとおり平成３０年度（４月～１２月）政務活動費収支報告書を提出します。

（その２）

平成30年度　政務活動費収支報告書

会派名　　柊の会

１　収　　入

政務活動費　５４０，０００円

２　支　　出

（単位：円）

科　　目	金　　額	備　　考
調査研究費		
研修費	２７，０００	7/17～18　林活議員連盟（平川市、弘前市）
広報費		
広聴費		
要請・陳情活動費		
会議費		
資料作成費		
資料購入費		
人件費		
事務所費		
合　　計	２７，０００	

３　残　　額　５１３，０００円

（注）備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

＜平成３０年度＞
＜４月～１２月分＞

政務活動費使用状況

柊の会

会派名	金額	備考		
収入	540,000	30,000円×2人×9カ月		
議員数	2			
支出				
調査研究費				
研修費	27,000	7/17～18　林活議員連盟（平川市、弘前市）		27,000
広報費	0			
広聴費	0			
要請・陳情活動費	0			
会議費	0			
資料作成費	0			
資料購入費	0			
人件費	0			
事務所費	0			
合計	27,000			
残額	513,000			

研　　修　　費

（その３）

政務活動報告書

会派名	柊の会

活動議員名（取扱議員名）		
戸　来　　伝		

区　　分				合計金額
1　調査研究費	2　研修費	3　広報費	4　広聴費	27,000 円
5　要請・陳情活動費	6　会議費	7　資料作成費	8　資料購入費	
9　人件費	10　事務所費	※該当する区分に○印		

期間 （年月日）	平成 30 年 7 月 17 日　～　7 月 18 日　（　1 泊　2 日）
支出目的 （支出理由）	7 月 17 日　平川市 ・株式会社津軽バイオマスエナジー「木質バイオマス発電事業について」 ・津軽バイオチップ株式会社「木質バイオマスチップ生産の状況について」 7 月 18 日　弘前市 ・「駅前こどもの広場」における木育の取り組みについて」
用務先 （支払先）	平川市、弘前市
内容及び成果	別紙　視察報告書のとおり

※領収書及び料金内訳書等の写しは裏面へ貼り付けしてください。

報告書（柊の会）

①木質バイオマス発電事業について（株津軽バイオマスエナジー）

②木質バイオマス生産チップの状況について（津軽バイオチップ㈱）

平川市にある「木質バイオマス発電」は、２０１７年４月から稼動し、地域の森林から発生する大量の間伐材や、りんごの栽培で発生した剪定枝をチップに加工した木質バイオマスを燃料として、その燃焼した熱の蒸気でタービンを回し発電する施設です。

平川市は、りんごの生産量日本一の青森県の中でもトップクラスの生産量を誇っていますが、りんごの栽培で発生した剪定枝の廃棄や、野焼きによる環境負荷が課題であったため、それらを低減したいと考えていたところ、再生エネルギー事業の展開を模索していた㈱タケエイと考えが合致し、この事業展開へと結びついたとのことです。

地域で発生した間伐材等は、地元民間企業が主体となりタケエイも一部出資した津軽バイオチップ㈱が木材や剪定枝を地元業者から１kg 当たり４円で買い取り、さらに市が２円上乗せして補助を行っているとのことで、それらを木質チップに加工して㈱津軽バイオマスエナジーに納入しています。木質チップは長期購入契約を締結しているため、発電燃料を長期にわたり確保しています。発電した電気は、公共施設等に電力を供給するなど、資源循環型エネルギーの構築に寄与しています。また、施設園芸にも取り組んでおり、農業用ハウスの暖房費はバイオマス事業の発電排熱を利用しているため、暖房費が不要とのことです。しかしながら、発電に係るコストは当初計画を上回っているとのことで、今後の課題であるとのことです。

日本一の生産量を誇る青森県のりんごの栽培には大量の剪定枝が発生することから、その廃棄に要する費用や再利用は長年の課題でありましたが、それらを有効活用することで地域に還元する仕組みを構築しており、りんご生産者の所得向上などに寄与することが期待されます。これまで利用が低迷している間伐材等の利活用にも貢献が期待でき、このような企業誘致を実現できた平川市をうらやましく思います。個人的には、市街地に施設が立地していたので、もっと郊外の方に立地できれば運搬に係る費用が削減できたのではないかと感じましたが、当市でもこのような企業誘致が実現し、間伐材等の利活用が促進されることを期待します。

弘前市駅前こどもの広場（弘前市）

弘前市駅前こどもの広場は、大手スーパー等の撤退に伴い空きフロアが生じていた商業ビルを活用し、空き店舗の利活用とともに木育を子育て支援に取り入れた「子育て支援センター」です。子育て支援センター内は、プレイルーム、親子カフェ、託児室等があり、施設内部は県産材木をふんだんに取り入れた造りになっていました。また、木育に関する各種イベント等の開催や、遊び場に木育インストラクターを配置し、木製おもちゃの正しい遊び方の指導などを行い、木育の普及啓発を図るとともに、物を大切さにする心も育んでいるとのことでした。

子供の頃から木と触れ合い、木の優しさや温もりを感じることは、子供たちの優しい心の育みに寄与することが期待でき、木育には最適な施設であると感じました。当市にも、市民交流プラザ「トワーレ」に木を使ったプレイルームがありますが、木育を主目的に設置された施設ではありません。しかし、木を使ったプレイルームがせっかくあるので、それらの有効活用を考えていき、木育の普及啓発を図っていければと感じました。